

自己呈示の意図の強さが行動に与える影響 —歩容に着目して—

徐 韵[†] 正田 悠^{††} 坂本 晶子^{†††} 阪田 真己子[†]
[†] 同志社大学文化情報学部 ^{††} 立命館大学スポーツ健康科学部
^{†††} (株)ワコール人間科学研究所

1. はじめに

人はいろいろな生活場面において常に他者と関わっており、他者の存在を意識して行動選択している。このように他者が自分に対して抱く印象を操作することを自己呈示という (Leary, 1994)。自己呈示は、必ずしも他者に対して強く意識して行われるものではない場合があることが知られているが、これまでの研究では、他者の印象を操作しようとする強い意図を前提としており、自己呈示の意図の強さについて考慮されてこなかった。そこで本研究では、自己呈示の意図の程度に着目し、日常行動としての「歩容」にそれがどのように反映されるかを明らかにすることを目的とする。

2. 方法

実験参加者は大学生・大学院生 70 名 (男女各 35 名, 平均年齢 21.2 歳, $SD = 4.80$) であった。意図の強さ要因を設定するため、自己紹介を二回 (練習・本番) してもらい、それに向かう歩行を分析対象とした。なお、自己紹介の練習・本番を一回目・二回目に変換した統制群を設置した。実験では、STAI 尺度による不安状況、承認欲求 (賞賛獲得欲求・拒否回避欲求)、二回の自己紹介における自己呈示の意識評定の質問紙調査を行った (参加者内計画)。

3. 結果

3.1. 歩容特性

歩行映像から、OpenPose (Cao, et al., 2018) を用いて矢状面における 4 歩分の 2 次元座標を抽出し各関節角度を算出した。94 変数の特徴量に対して主成分分析を行い、解釈可能な主成分を取り上げ、第 8 主成分まで採用した (表 1 参照)。

3.2. 意図の強さが歩容に与える影響

練習と本番の歩容特性に対して対応のある t 検定を行った結果、第 2 主成分 (脚の回転速度)、第 3 主成分 (体幹の安定性)、第 6 主成分 (背中の伸び) に有意差がみられた (表 1 参照)。統制群においては 2 回の歩行に有意差がみられな

かったため、自己紹介に向かう練習、本番の歩容には、自己呈示の意図の強さが反映されたといえる。

また、各歩容特性においては、脚の回転速度 (第 2 主成分) において男女差が生じ ($F(1,45) = 4.884, p = .032$)、男性は自己呈示の意図の強さに影響されず ($F(1,21) = 0.154, p = .699$)、女性は意図が強いほど速く歩こうとすることがわかった ($F(1,25) = 6.708, p = .016$)。また、歩行リズム (第 7 主成分) においては、承認欲求に対する違いが生じ ($F(1,45) = 3.926, p = .027$)、そのうち、賞賛獲得と拒否回避両方の欲求を高く持っている人は意図が強いほど歩行のリズムが安定していることが確かめられた ($F(1,9) = 9.130, p = .017$)。

表 1. 8 つ主成分および対応のある t 検定結果

主成分	成分名	値との関係	成分が大きいと、	p 値
1	腕の振り	正	腕の振りが大きくなる。	.874
2	脚の回転速度	正	ビッチが速くなる。	.070
3	体幹の安定性	正	上半身の動きが小さくなる。	.084
4	膝の伸び	負	膝が曲がっている。	.505
5	頭のうつむき度	正	頸部が前に傾いている。	.815
6	背中の伸び	正	背中が伸びている	.043
7	歩行リズム	負	歩行リズムが良くなる。	.813
8	頭の安定性	負	頸部の前後の揺れが大きくなる。	.437

4. 考察

実験参加者は、自身をよく見せるために、速く、上半身が安定的、背中がまっすぐな歩き方をしたことがわかった。それは、多くの参加者は他者に対して楽しいイメージを持たれたいという意図を持つことから、脚の回転速度が歩き方に反映された可能性があるといえる。また、上半身の不安定さは動機づけの低下の表れであるとされていることから、動機づけの高い本番において上半身が安定的になったと説明できる。

参考文献

- Cao, Z., et al. (2018) OpenPose: realtime multi-person 2D pose estimation using Part Affinity Fields." arXiv preprint arXiv:1812.08008.
 Leary, M.R. (1994) Self-presentation: Impression management and interpersonal behavior. Dubuque, Iowa: Brown & Benchmark.